



東近江青年農業者プロジェクト・意見発表大会を開催！

2月2日、東近江青年農業者クラブ（以下、クラブ）主催による令和4年度プロジェクト・意見発表大会が開催され、クラブ員、指導農業士会、各種関係機関等から総勢33名が参加されました。本大会はクラブ員がそれぞれの農業経営において直面する諸問題を自らが把握・整理・問題解決に向けて取り組み、その成果を発表する場で、今年度は、プロジェクト発表が3課題、意見発表が2課題の発表となりました。当課は、発表に向けて活動内容のまとめ方や発表方法について個別支援を行うとともに、クラブへの本大会の運営支援を行いました。

プロジェクト発表課題は、個人から「葡萄栽培のIT活用見える化改善による生産合理化」、「大豆跡水稻の収量安定化に向けた資材施用効果」、クラブから「滋賀県一楽しいクラブへ！！」の3課題でした。前半2課題は、農業を取り巻く情勢が大きく変化する中で、各々の生産者が経営の安定化を目指し、ITを活用した生産性の向上や収益力向上を目的とした作付け体系の変更についての取り組みを発表され、会場からは多くの意見や質問があり、活発な議論となりました。また、クラブからは、東近江地域の農業を盛り上げようと積極的に取り組むクラブ活動について発表されました。

意見発表は、卸売販売中心の経営モデルから小売り販売に積極的に取り組む花き生産者が熱い想いを語られました。また、八日市南高等学校の高校生から、家畜人工授精師を目指す高校生の牛に対する想いを語られ、元気で力強い発表でした。

審査の結果、(有)シャロン農園（近江八幡市）の弓削田信基氏が取り組んだ「葡萄栽培のIT活用見える化改善による生産合理化」が最優秀賞を受賞され、3月に開催される県大会へ進むことになりました。

当課は、今後もクラブや関係機関と連携し、プロジェクト活動等の取組支援を通し、農業に関わる「人のすそ野」を広げられるよう取り組みます。



大会の様子



表彰式